

拒絶理由通知書

特許出願の番号 特願2002-337435
起案日 平成19年 8月20日
特許庁審査官 工藤 一光 9274 5J00
特許出願人代理人 笹島 富二雄 様
適用条文 第29条第1項、第29条第2項、第29条の2

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものです。これについて意見がありましたら、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出してください。

理 由

1. この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前に日本国内又は外国において、頒布された下記の特許出願に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明であるから、特許法第29条第1項第3号に該当し、特許を受けることができない。
2. この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前に日本国内又は外国において頒布された下記の特許出願に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。
3. この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願の日前の特許出願であって、その出願後に特許掲載公報の発行又は出願公開がされた下記の特許出願の願書に最初に添付された明細書、特許請求の範囲又は図面に記載された発明と同一であり、しかも、この出願の発明者がその出願前の特許出願に係る上記の発明をした者と同じではなく、またこの出願の時に於いて、その出願人が上記特許出願の出願人と同一でもないので、特許法第29条の2の規定により、特許を受けることができない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

- ・上記理由1及び理由2
- ・請求項1、4、5に対して
- ・引用文献1、引用文献2
- ・備考

文献1及び文献2には、本願でいう光分散モニタ装置であって、特徴量検出部と、分散情報抽出部とを備えることが記載されている（この点、文献1の図5、6、14に関する記載、文献2の図1、5に関する記載等を参照）。

- ・上記理由2
- ・請求項3に対して
- ・引用文献1
- ・備考

文献1には、図5、6、14及び段落【0018】ないし【0024】、【0028】の記載等を参照すると、入力される光信号を電気信号に変換する光検出器（受光部）と、該光検出器（受光部）で変換された電気信号の波形について、平均強度を検出するピーク検出部及び平均値検出部（信号強度検出部）とを有し、コンパレータ（分散情報抽出部）は、参照信号により示される基準値に対する、前記ピーク検出部及び平均値検出部（信号強度検出部）で検出される平均強度の比較を行い、該比較結果に対応した信号を分散情報として出力することが記載されている。

したがって、文献1に記載されたピーク検出部及び平均値検出部（信号強度検出部）により平均強度を検出する際に、周知のクロック信号を用いて、入力される光信号に同期した前記クロック信号に従い、1周期の中心およびその近傍に位置する部分をサンプリングして平均強度を検出することは設計事項である。

- ・上記理由3
- ・請求項1、4、5に対して